

生涯健康科学ジャーナルの創刊に寄せて

生涯健康科学ジャーナル発起人

静岡県立大学 副学長 渡邊 順子

「健康」の定義は、1948年に発効されたWHO憲章の前文：Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. 「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます（日本WHO協会訳）」が、世界中でひろく使われています。

ところが、1998年の第101回WHO執行理事会において、「spiritual（霊的）とdynamic（動的）」を加えた新しい健康の定義が検討されましたが、WHO総会で審議した結果、採択が見送られています。日本では、WHO執行理事会により総会に提案が決まった時点で、健康の定義の改正が規定事実のように大きく報道されたために、現在も誤解が続いています。

この提案の根拠は、ギリシア・ローマに由来する医学理論を体系的に整理したもので、イスラム医学の伝統に則って、文化的宗教的な背景に基づいた健康観を提案したものと考えられます（日本WHO協会）。

このように健康の概念は変化することから、人の生涯の健康科学に携わる学問領域は、多様性に富むことが伺えます。

また、健康長寿の延伸があたかも、人の生涯の健康を保証するような錯覚を覚えてしまう感覚は否めません。いま、改めて人の生涯の健康を問い、新たな概念生成に挑むことが重要になってきました。

今回創刊される「生涯健康科学ジャーナル」は、健康を“Health”ではなく、“Lifelong Well-Being”として捉えています。

WHO憲章の健康の定義を不変のものとして捉えるのではなく、時代や環境に即して変化するなかで、健康とは何かという真摯な議論を続けていく姿勢が求められています。

人の命と暮らしについて、生涯の健康を科学的に問います。その人らしく心身健やかで、幸福度の高い暮らしを獲得し、生涯を生き抜くための希望のコミュニティとして、ジャーナルの発展に期待します。

2024年3月1日